

政昭は、この後も馬入川（相模川）、酒匂川、富士川、安倍川、大井川、天竜川、今切（浜名湖）、起川（木曾川）で、仮水主頭として報告に上がっています。

政昭は、この後も馬入川（相模川）、酒匂川、富士川、安倍川、大井川、天竜川、今切（浜名湖）、起川（木曾川）で、仮水主頭として報告に上がっています。

政昭は、この後も馬入川（相模川）、酒匂川、富士川、安倍川、大井川、天竜川、今切（浜名湖）、起川（木曾川）で、仮水主頭として報告に上がっています。

政昭は、この後も馬入川（相模川）、酒匂川、富士川、安倍川、大井川、天竜川、今切（浜名湖）、起川（木曾川）で、仮水主頭として報告に上がっています。

エピソード¹ 川といえば 浅井政昭 まさあき

4月29日（初日）品川・川崎間の六郷川

大森からほどなく、六郷川（多摩川）ろくごうがわ にいたる。今回の旅で最初に渡る川だ。

川の手前で、浅井政昭（八百里、当時やおりは近習）から水位の報告があった。政昭には、近習の仕事だけでなく仮水主頭も任せているのだ。今日は平水らしい。

船で渡り、川崎へ。

（政昭は、この後も馬入川（相模川）、酒匂川、富士川、安倍川、大井川、天竜川、今切（浜名湖）、起川（木曾川）で、仮水主頭として報告に上がっています。

急流を船で渡る富士川に天竜川、橋もなければ船もなく、人力で渡らなければならない酒匂川に安倍川、大井川。渡河の方法は、必ずしも、川の大小や緩急にあわせたものではありません。

一歩間違えば、物的被害、そして人的被害をこうむる危険もありました。）